

令和 8 年 8 月 28 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
大阪教育大学附属高等学校池田校舎	国立大学法人大阪教育大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
大阪教育大学 附属高等学校池田校舎	https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/ikeda-h/overview/curriculum/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
大阪教育大学 附属高等学校池田校舎	https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/ikeda-h/overview/school-evaluation/	https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/ikeda-h/overview/school-evaluation/

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

計画通り実施できている

- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・ 実施している

- ・ 実施していない

<特記事項>

特になし

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別的教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例においては、「グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成」を主たる目標として掲げている。Society 5.0 に象徴される高度に情報化・国際化した社会では、単に知識を習得するだけでなく、既存の枠組みを越えて価値を創造し、多様な文化的背景をもつ他者と協働しながら課題を解決する力が求められる。

そのため、本校では次のような姿勢・考え方・価値観を育成することを重視している。

- ・ 既存の知識体系にとらわれず、自由で柔軟な発想をもって物事を捉える姿勢
- ・ 課題を多面的・批判的に捉え、偏見のない価値観をもって判断する態度
- ・ 社会課題の解決に向けて主体的に行動し、協働を通して成果を生み出す実践力

これらの資質・能力を体系的に育成するために「グローバル探究」の科目を設置し、海外連携校との協働学習、国際課題を扱う探究活動、英語による発信活動などを組み合わせた教育課程を編成している。

実施の成果として、特に「高校生国際会議」における生徒の主体的な参画が顕著である。企画運営、課題研究の発表、ワークショップでのファシリテーションなど、国際的な場で自ら役割を担い、協働的に活動する姿が見られた。また、国内外の学会・フォーラム・研究大会等への参加も増加し、口頭発表・ポスター発表の件数は確実に増加している。

今後の課題としては、探究活動の質のさらなる向上があげられる。個々の生徒の研究テーマ設定やデータ分析の深まりにはばらつきがあり、より高度な探究プロセスを支援する体制が必要である。また、対外的な発表機会をより多く確保し、より多くの生徒が国際的・全国的な舞台で成果を発信できる環境整備も求められる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例の実施により、「グローバル探究」では海外連携校・大学との協働学習を通して、国際社会が直面する課題に取り組む学習機会を提供している。ディベート、ディスカッション、プレゼンテーション、クロスカリキュラム型学習など、多様な学習形態を組み合わせることで、次のような資質・能力の育成を図っている。

- ・ 異文化理解を基盤とした寛容性
- ・ 自ら課題を見だし解決に向けて行動する主体性
- ・ 他者と協働しながら成果を創出する協働性
- ・ 社会課題を創造的に解決しようとする意欲と態度

これらは学校教育法に示される「社会の発展に寄与する資質・能力を備えた人間の育成」という目標と親和性がある。特に、国際的な視野をもつ人材の育成は、地域社会・国際社会双方に貢献する人材育成の観点からも意義が大きい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

教育特例校としての取り組みは令和7年度を以て終了となるが、本校では、「総合的な探究」の科目の中にグローバル探究の内容を伝承し、「グローバル探究Ⅰ」（1年次）で探究の基礎的スキルを習得し、「グローバル探究Ⅱ」（2年次）で実践的な探究活動を行う。

今後は、両科目間の連続性をさらに強化し、学年を越えた学びの継承を図るために、以下の取組を推進する。

- ・ 相互乗り入れ型の学習機会の拡充

異学年が互いに学ぶことができる成果発表の場を増やし、先輩から後輩への学びの継承や、研究テーマの深化を促す。

- ・ 探究活動を支える情報基盤の整備

「リサーチマップ」の活用を促進し、研究者情報へのアクセスを容易にする。また、卒業生・保護者の専門分野を登録したデータベースを構築し、生徒が専門家に相談できる環境を整える。

- ・ 高大接続の強化

大学教員による講義、研究室訪問、共同研究などを通して、より高度な探究活動を実施する。これにより、生徒の研究の質を高めるとともに、進路意識の向上にもつなげる。

- ・ 課題発表機会の拡大と質の向上

校内外の発表会や国際会議等への参加機会を積極的に確保し、発表内容のブラッシュアップ指導を強化することで、探究成果の社会的発信力を高める。